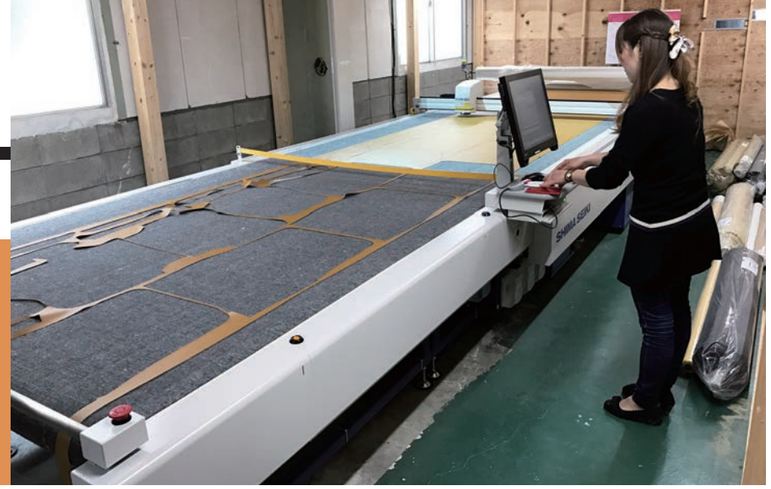
100

株式会社 Re－fa

職人技が求められる現場を チームワークで支える


自動裁断機

CADシステム

現場での張り替え作業

張り替え作業完成後

事業内容

現場での張り替えに特化

同社は椅子・ソファの張り替えやオーダーメイドのソファなどの別注製作およびそれに付随する現場施工を行っている。職人技の世界だ。特に店舗など現場での張り替え作業に特化し、短納期の張り替えに対応しているのは全国でも同社だけ。1日も休めない店舗でのアイドルタイムや閉店後から翌営業開店時間までの間に、わずかな道具だけを使って作業を進める。

製造から取り付け設置まで一貫対応

同社の設立は平成20年。来年の平成30年で10周年を迎える。もともとは特注家具の取り付け設置工事を行っていた。それが製造にまで着手したのが平成22年。今では製造から取り付け設置工事までを一貫して行う。現場での作業にはリスクも付きまとう。技術的に難しいときもある。時間に追われる作業でもある。それだけに現場を支える事務も含めたすべての従業員のチームワークが大切になる。

補助事業

外注依頼で品質管理に課題

店舗用の椅子・ソファの張り替えや製作は、毎回違う形のものを職人の手で一つひとつ作り、張り替えていく手間を要する仕事だ。めくり作業、型おこし、要尺、裁断、縫製、生地の張り込み、仕上げまでの工程を一貫してできる職人になるためには、経験と時間を要する。すべて手作業のため繁忙期での自社の対応に限界があり外注に依頼することも多くあるが、その分、品質の管理に問題が起こるなど課題を抱えていた。

価格競争でなく短納期、技術で勝負

そこで製造工程の改善を行い、機械にできることは機械に任せ、職人の技をより生かせる体制を作ることが求められていた。折から海外からの安価な製品の流入が多くなってきている今日、取引先のコスト削減要求に立ち向かうためにも、価格競争でなく一つひとつの製品に短納期、技術で勝負をする体制の整備が急務だった。

具体的成果

5―10％のコストダウン

そこで同社は「ものづくり補助金」を使ってCAD、デザインシステム、自動裁断機を導入した。その結果、まず型紙を使用した裁断からデータを利用する裁断にすることで、型紙材料を削減することができた。

実際に型紙の管理に要する手間やそれを探し出す時間が10％削減し、型紙を保管していたスペースも空いた。また、裁断するパーツの最適な配置ができることで、5―10％のコストダウンと廃材処理費用の削減につながった。

事務担当者に裁断工程を移行

特に、張地を裁断するには相当な経験を必要としていた。この工程を機械化することで専門的な知識や経験のないアルバイトやパートでも裁断作業が可能になる。正確な裁断は安定した価格と品質を確保することにつながる。

また、職人1人が1年間に裁断に要する時間は約800時間（100日間）かかっていたのが、3分の2に短縮することが可能になった。同社では今後、この作業を事務の担当者に移行しようとしているところだ。

今後の戦略

1人当たり536時間を機械化

今後は機械化できる工程の時間を3分の1に短縮することを目指す。職人1人当たり年間536時間にも及ぶ計算になるが、これを職人の技術向上に充てることで、生産効率と1人当たりの付加価値（労働生産性）を高めていく。

そのことで、同社がこれまで対応しきれなかった顧客を取り込むことができ、売り上げ増が期待できる。また、製造工程のコスト削減は、安定した価格と品質の提供を可能にするとともに、従業員の待遇改善につなぐことができる。

張り替えの新たな販路開拓へ

例えば、同社の現地における張り替え案件の月間受注数は、今回の設備導入前は8件だったが、当面の目標として25件の確保を目指す。それに伴って年間売上高も3倍以上に増やす計画を持つ。

今後、主要顧客の内装設計業者へ新しい椅子やソファに買い替えなくても、リノベーションや既存商品の張り替えの提案を積極的に行っていく。また、それら業者と提携して、オーダーメイドに近い張り替えの新たな販路開拓の拡大にも乗り出していく考えだ。

株式会社 Re－fa

代表取締役社長　原田 義尊(よしたか)

〒557-0061　大阪市西成区北津守4－4－19

TEL. 06-6568-4113　FAX. 06-6561-6070

資本金／8,000千円　従業員／13名

主な取引先／内装設計会社、家具メーカーなど

主な保有設備／CAD、自動裁断システム、デザインシステム、刺しゅう機など

主力製品／オーダーメイドソファ製作、椅子・ソファの張り替え、店舗家具の取り付け設置工事など

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　試作OK　連携力

日本の技を生かす

代表取締役社長　原田 義尊（よしたか）

海外からの安い輸入品に対抗するには高齢になった家具職人の技術を生かし、またそれをいかに伝承していくかが肝要です。新規設備の導入で職人の育成にも力を入れて、日本の技を残していきたいですね。

http://re-fa.co.jp/

取材を終えて

互いに協力し合える職場が強みを支える

安い輸入品の流入だけでなく、今は簡単な椅子の張り替えならDIYで行うこともできる時代。そんな日本で職人の技を残すことに挑戦をしている同社。現場での作業は夜中に行うことが多く不規則な作業になりがちだ。しかし同社では70歳の高齢者でも職人として働いている。それを支えるのは経営者だけでなく、従業員が少なくとも部署を越えて互いに協力し合える環境にある。新規の設備投資だけではない同社の本当の強さはそこにある。